ビーチクリーンアップ モニタリング調査 2026
「浜歩き×海ごみ調査」(高松市庵治半島)

日　　時：令和 8 年（2026 年）11 月 8 日（日）9:00～14:20
場　　所：調査場所①：高松市庵治町鎌野（鎌野海岸）
　　調査場所②：高松市庵治町高尻（高尻海岸）
参加者数：23 名

11 月 8 日 日曜日、高松市庵治半島にある鎌野海岸と高尻海岸の 2 か所で、ビーチクリーンアップモニタリング調査を実施し、高校生や大学生、環境活動や市民活動に取り組む方々、ベトナムからの視察者など、計 23 名が参加しました。

今回の調査では、世界共通の調査方法である「International Coastal Cleanup（ICC）」と「水辺の散乱ごみ指標評価手法」を用いて、海岸漂着ごみの種類や量を調べながら、クリーンアップ活動を行いました。

また、11 月 1 日に開催した「海ごみリーダー養成講座」の修了生が調査のキャプテンを務め、講座で学んだ調査方法や注意点を参加者に説明するなど、実践の場で活躍しました。

海岸にはどんなごみが多い？

調査場所①：鎌野海岸（高松市庵治町鎌野）

鎌野海岸は、近年、海岸クリーンアップ活動が多く行われていることもあり、大きなごみは比較的少なかったものの、25 分間の ICC 調査でカキ養殖用まめ管が 257 個、また発泡スチロールなどの破片ごみが多く確認されました。
さらに、食品の包装や袋など、日常生活に関係するごみも目立ちました。

調査場所②：高尻海岸（高松市庵治町高尻）

高尻海岸でも、カキ養殖用まめ管が 293 個と最も多く、発泡スチロールの破片は 236 個確認されました。こちらでは海ごみリーダー養成講座の修了生がキャプテンを務め、調査方法の説明や参加者との気づきの共有を行いながら、活動を進めました。

今回の調査結果から、海岸によってごみの種類や量に違いがあること、また、海岸での清掃活動だけでは取り除ききれない、小さな破片ごみも多く存在することが分かりました。そして、2 か所の海岸で合計 18 袋、17.9kg のごみを回収しました。

海ごみについて学ぶミニ講座と参加者の気づき、活動のふりかえり

調査の合間には、海ごみ問題への理解を深めるための「海ごみミニ講座」も実施しました。

海ごみの現状や問題点、問題解決に向けて必要なことなどを紹介し、参加者の皆さんと一緒に考える機会となりました。

参加者からは、「カキ養殖で使うまめ管が多かった」「小さなごみは拾うのが大変」「拾ってみると、見た目以上にごみが多かった」といった感想が寄せられました。

実際に海岸を歩き、ごみを拾い、種類や個数を調べることで、普段は気づきにくい海ごみの実態を知ることができます。今回の調査が、参加者の皆さんにとって、海ごみ問題を身近な問題として考えるきっかけになればと思います。

また、海ごみリーダー養成講座の修了生が、今回の活動でキャプテンとして活躍したことも大きな成果です。今回の経験を生かし、身近な地域や日常生活の中で海ごみ削減に取り組むとともに、今後、海ごみリーダーとしての活動の輪がさらに広がっていくことを期待しています。

表 1　各海岸における ICC 調査結果

調査場所	ICC 調査結果（個数が多かった 3 品目） t ＝25 分間	回収量
調査① 鎌野海岸	① カキ養殖用まめ管（長さ 1.5ｃｍ） 257 個 ② 発泡スチロール破片 77 個 ③ 食品の包装・袋 42 個	7 袋（30L ごみ袋） 7.5kg
調査② 高尻海岸	① カキ養殖用まめ管（長さ 1.5ｃｍ） 293 個 ② 発泡スチロール破片 236 個 ③ 硬質プラスチック破片 87 個	11 袋（30L ごみ袋） 10.4kg

【International Coastal Cleanup(ICC)】

世界共通の方法で、回収したごみを品目ごとに分類してその個数をカウントします。どのような品目が多いのかを把握し、発生抑制対策にも役立てられています。

【水辺の散乱ゴミの指標評価手法】

海岸を見てごみの量を大まかに調べる方法です。クリーンアップを実施する前や海岸や地域におけるごみの量を把握したりするときに使われている方法です。

【活動写真】

調査場所①：鎌野海岸



海岸クリーンアップ方法の説明



ICC 調査の様子



ベトナムからの視察者も一緒に ICC 調査



調査結果と気づきの共有

調査場所②：高尻海岸



海ごみリーダー養成講座修了生による説明



ICC 調査の様子



海ごみについて学ぶミニ講座



集合写真